



3月18日、日本経済の中心地で活躍する本市ゆかりの企業が集い、情報共有や連携を図る「四国中央市首都圏交流会」が東京都でありました。講演会には、本会相談役の井原巧衆議院議員をお迎えし「国政から考えるこれからの地域経済について」と題して、自身の経験を交えたお話をいただきました。

経済の中心で絆を深める 四国中央市首都圏交流会を開催



3月31日、本市の産業の発展に寄与し、日本一の紙のまちの礎を築いた銅山川の分水事業を称える「疏水感謝祭」が、戸川公園（上柏町）でありました。上柏公益会（片岡晶会長）による祭事に、今年も多くの関係者や市民が参加。先人の遺徳を偲ぶとともに、まちを支える水の恵に感謝を表しました。

疏水感謝祭で 先人の遺徳を偲ぶ



3月14日、上分婦人会（佐藤温美会長・写真中央左）から日赤愛媛県支部四国中央市地区長である篠原市長に、能登半島地震災害義援金が手渡されました。同会では、小学生に日用品で作る防災グッズを教えるなど、生活の知恵を取り入れた防災教育を実施。赤十字奉仕団としても活動しています。

地域一丸となって防災意識の向上を 上分婦人会が義援金を寄贈



3月11日、宇摩法人会（篠原聡一会長・写真中央左）から市内の保育施設と小中学校に、幼児教育用絵本216冊とワイヤレスマイク26台が寄贈されました。寄贈式で篠原会長は「今後も足りないものを必要な所へ届けられるように支援を続けていきたい」と話し、継続的な支援に意欲を示されました。

市内1200社の思いを集め 宇摩法人会が教育物品を寄贈



3月22日、この春から自衛隊に入隊・入校する市内3高校出身の8人が篠原市長を表敬訪問。これから全うする責務に対する意気込みを話しました。少子化が進む中、国の平和と安全を守りたいと自衛官を志した若者たち。日々の訓練と学びで心身を磨き、立派な自衛官となることを期待しています。

平和と安全を守る自衛官を志す 市内3高校出身者が市長を表敬訪問



4月3日、井原工業株式会社（井原伸代表取締役・写真中央）と協力会社46社で構成される井原工業安全協議会（横内文行会長・同右から2番目）から、能登半島地震災害義援金が日赤へ寄贈されました。贈呈式で井原社長は、「今後も私たちにできることを考え、支援を続けていきたい」と話されました。

支援の輪を広げたい 井原工業安全協議会が義援金を寄贈



令和6年4月1日、四国中央市は発足20周年を迎えました。この記念すべき日に入庁した41人の新規任用職員たちは、それぞれの決意を揮毫した手漉き和紙を携えて、入庁式に出席しました。

新規任用職員を代表して抱負を述べたのは、書道パフォーマンス甲子園振興室に配属された徳重朝美さん。「市民から信頼される職員になりたい」と、「感謝」の2文字を掲げました。続いて行われたのは、これから1年間掛けて展開していく、20周年記念事業のテイクオフイベント。3期目となる書道パフォーマンス甲子園アンバサダーに就任した青柳美扇さんが、20周年のキャッチコピー「感謝、そして未来へ」をパネルに揮毫しました。

イベントの最後には、参加者全員で一斉に紙飛行機を飛ばし、記念イヤールの始まりを鮮やかに演出しました。

塩塚は燃えているか 6年ぶりの山焼きは 三好市と同日合同開催



3月31日、塩塚高原の春の風物詩「山焼き」がありました。害虫駆除などススキの生育を目的に行われる「山焼き」ですが、コロナ禍や天候不順により6年ぶりの開催となりました。午前9時40分、山頂に放たれた火は、地元消防団らが警戒する中、4時間かけて20ヘクタールを焼きました。

そしてこの日は、三好市側でも「野焼き」を実施。初夏には、焼け跡から芽吹いた命が塩塚高原を緑色に染めます。



20周年の始まりを
桜まつりが
鮮やかに彩る

3月22日から4月7日にかけて、市内各地の桜の名所で「桜まつり」が開催されました。

市発足20周年の始まりを祝うかのように、満開となった今年の「桜まつり」。会場には、朝早くから多くの人が訪れ、民謡や楽器演奏、ダンスや鉄砲隊の演武など、各種の催し物を楽しんでいました。

取材中に撮影した桜の写真をホームページに掲載しています↓





伊予三島運動公園体育館に続いて、しこちゅ〜ホールにもしこちゅ〜のオブジェが登場。エントランスホールでみなさんをお待ちしています。ぜひ一緒に写真を撮ってください。そして、こちらのしこちゅ〜は本物のティッシュ付き。鼻がムズムズしたら、しこちゅ〜からティッシュを買ってね。

しこちゅ〜ホールでしこちゅ〜と握手！



3月23日、新宮町新宮にある熊野神社で、新宮茶など地域の特産品や市内の人気店を集めた「熊野の杜のマルシェ」が開催されました。手漉き和紙を使ったワークショッップや新宮茶とハーブティーのブレンド茶試飲会などのほくらんだ笑顔が歴史ある神社からあふれていました。

新宮でこころほころぶ熊野の杜のマルシェ開催

第17回書道パフォーマンス甲子園7月28日(日)開催！

大会とともに大きくなあれ書道P甲子園応援桜を植樹



3月15日、伊予三島運動公園で大会の協賛企業である株式会社伊藤園(本庄大介代表取締役社長)が取り組む「わたしの街の未来の桜プロジェクト」による桜の記念植樹がありました。植樹式には三島高校と川之江高校の書道部員が参加。同社の山名 悟四国地区営業部長らとマメザクラ一本を植樹しました。

夏に咲け 墨の華 今大会のポスターを発表



3月21日、消防防災センター(中曽根町)で今大会のポスターが発表されました。キービジュアルを制作したのは、岩手県立高田高校2年の千葉七奈さん(写真奥)。今大会のキャッチコピーをテーマに全国から応募があった作品の中から、高校生運営チーム「SHIPS」の投票で選ばれました。

キービジュアル・・・広告・宣伝などを中心となる画像

全国の児童合唱団が一堂に会し、その歌声を披露する「全日本少年少女合唱祭」が3月23日から24日にかけて、しこちゅ〜ホールで開催されました。



四国のまんなかで歌声響く全日本少年少女合唱祭 開催

全国的に集結した今大会。本市からは四国中央少年少女合唱団が出演し、晴れの舞台で美しい歌声を響かせました。

全国の舞台を楽しんできた吉岡弥夏さんハンドボール全国大会へ



ハンドボールチーム「HCえひめ(今治市)」に所属する吉岡弥夏さん(土居中1年)が、県大会を制覇。3月23日から福島県で開催される春の全国中学生ハンドボール選手権大会に出場しました。3月15日に篠原市長を表敬訪問した吉岡さん。「みんな楽しんでプレーしたい」と抱負を述べました。

更なる高みを目指す 敬心館の3人が全国大会で入賞



3月25日、昨年12月に大阪府などで開催された全国大会に出場した、日本空手道敬心館(三島金子)の3人が篠原市長を表敬訪問。優秀な成績を収めたことを報告しました。

祝 日本一

全国JOCジュニアオリンピックカップ 男子100メートル背泳ぎ



3月26日から東京アクアティクスセンター(東京都江東区)で開催された「第46回全国JOCジュニアオリンピックカップ春季水泳競技大会(日本水泳連盟主催)」に、エリールスポーツクラブ(村松町)所属の森下泰明さん(12歳・中曽根町)が出場。男子11・12歳の100メートル背泳ぎで、見事優勝しました。森下さんは、同200メートル個人メドレーと、50メートル背泳ぎにも出場し、いずれも3位入賞。今大会で3つのメダルを獲得しました。4月4日に篠原市長を表敬訪問し、大会の結果を報告した森下さん。優勝した種目で目標タイムを下回ったことを悔やみながらも、「世界記録を出してオリンピックに出場する」と更なる目標を掲げました。

市長のひとりごと 大河のしずく



四国中央市長 篠原 実

今日は令和6年4月1日、新しい年度の始まりであります。

新しく公務員になられた人にとっては、記念すべき日であり、家族にとっては、特にご両親にあつては、特別の日かもしれない。社会人のまさに第一歩を踏み出していくのである。振り返れば今から、大河のしずくが始まるのである。うれしいことも、つらいことも、仏道のように自分の人生である。

でも今までも結構たくさん

のことを経験している。それをクモの糸を扱うように、細心の注意を払いながら、自分の心に手繰り寄せてくるのである。

その連続を根気強く重ねていけば、クモの糸も強く逞しい布が織れるくらいになってくるだろうと私は思う。

時々しんどいこともありま

すが、まあそんなものと布

団の上で大の字になって、開

き直ることもいるよね。

私なんか、朝起きて、いま

だに今日も元気出してがんば

ろう、雨蛙に負けないように

ねと、独り言を言いながら顔

を洗っていくのである。

今は童謡の「春よ来い」を

みいちゃんの気持ちになっ

て、もごもと言っている。とにかく、とにかく、がんばろう。ぐちも腹一杯いいながらね。